

# 《結果の概要》

## I 産業連関表からみた農林漁業及び関連産業

### 1 農林漁業及び関連産業の国内生産額

平成 27 年における農林漁業及び関連産業の国内生産額は、116.1 兆円となった。

また、全産業の国内生産額に対する農林漁業及び関連産業のシェアは 11.4%となった。

表 1 農林漁業及び関連産業の国内生産額

単位：10億円

区 分	平成27年	
	生産額	構成比 (%)
農 林 漁 業	12,888	1.3
農 業	10,490	1.0
林 業	800	0.1
漁 業	1,598	0.2
農林水産関係製造業	38,051	3.7
食品製造業	36,776	3.6
非食品製造業	1,275	0.1
資材供給産業	2,341	0.2
関連投資業	1,856	0.2
関連流通業	33,367	3.3
商 業	29,913	2.9
運 輸 業	3,455	0.3
外 食 産 業	27,554	2.7
<b>農林漁業及び関連産業</b>	<b>116,057</b>	<b>11.4</b>
全 産 業	1,017,818	100.0

### 2 農林漁業の全体像

平成 27 年産業連関表からみた農林漁業の財・サービスの流れの全体像は、以下のとおりである。

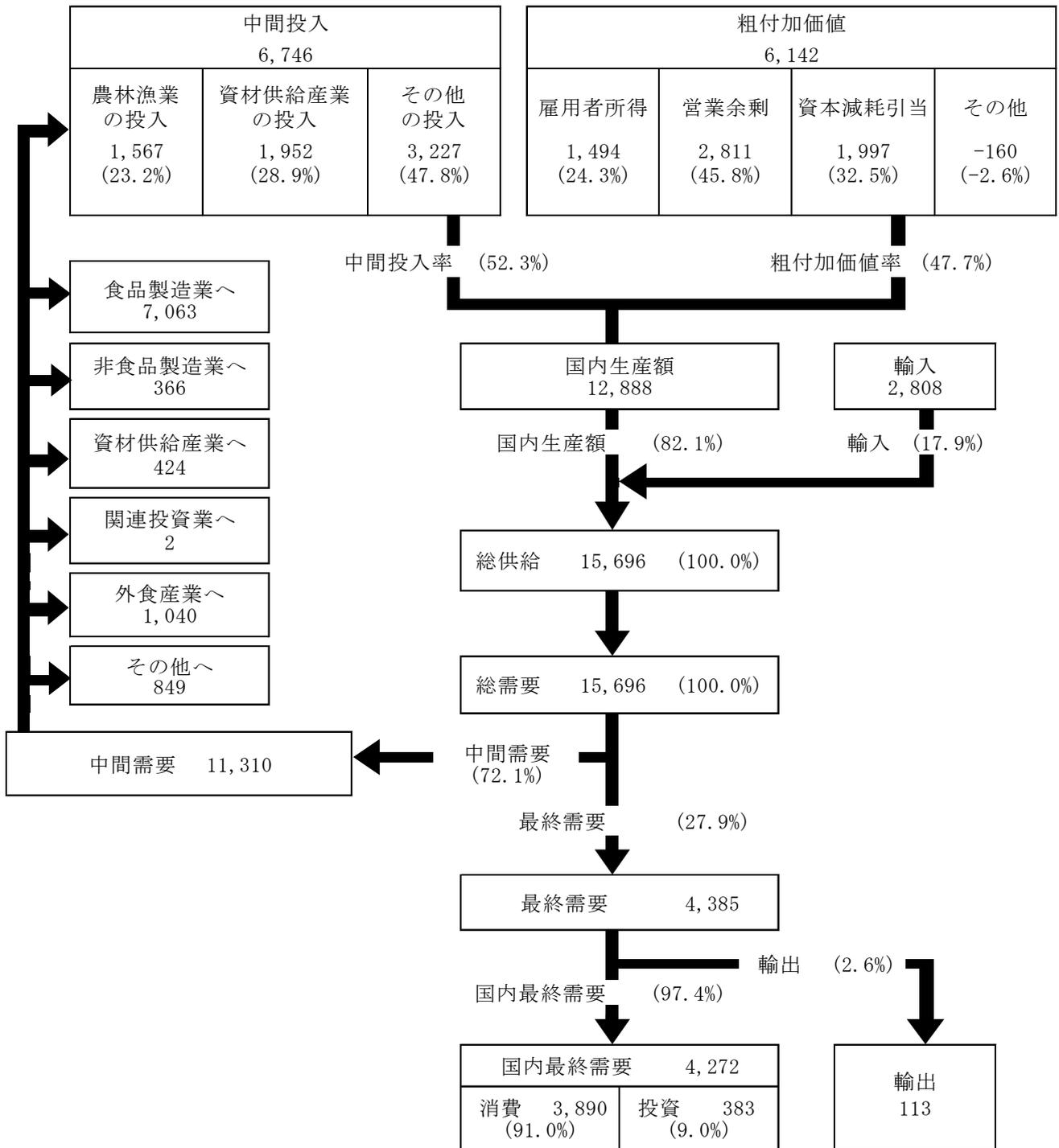
供給側からみると、総供給は 15.7 兆円で、このうち国内生産額は 12.9 兆円（総供給に占める割合は 82.1%）、輸入は 2.8 兆円（同 17.9%）となった。

国内生産額の費用構成をみると、中間投入は 6.7 兆円、粗付加価値は 6.1 兆円で、中間投入率は 52.3%、粗付加価値率は 47.7%となった。

需要側からみると、総需要は 15.7 兆円で、このうち中間需要は 11.3 兆円（総需要に占める割合は 72.1%）、最終需要は 4.4 兆円（同 27.9%）となった。さらに、最終需要の内訳をみると、国内最終需要が 4.3 兆円（最終需要に占める割合は 97.4%）、輸出 0.1 兆円（同 2.6%）となり、国内最終需要の内訳は消費が 3.9 兆円（国内最終需要に占める割合は 91.0%）、投資 0.4 兆円（同 9.0%）となった。

図1 産業連関表からみた農林漁業の全体像（平成27年）

単位：10億円



注：1 ( )は構成比を示す。

2 「消費」とは、家計外消費支出、民間消費支出及び一般政府消費支出をいい、「投資」とは国内総固定資本形成及び在庫純増をいう。

表2 生産者価格評価表

		中間需要											内生部門計	
		農業	林業	漁業	農林漁業	食品製造業	非食品製造業	農林水産関係製造業	資材供給産業	関連投資	外食産業	その他内生部門		
		01	02	03	01~03	04	05	04□05	06	07	08	09		
中間投入	農業	01	1,397	2	0	1,399	5,978	11	5,990	421	1	806	710	9,327
	林業	02	2	102	0	104	14	354	368	0	1	52	28	552
	漁業	03	0	0	64	64	1,072	0	1,072	3	0	182	111	1,432
	農林漁業	01 ~ 03	1,399	103	64	1,567	7,063	366	7,429	424	2	1,040	849	11,310
	食品製造業	04	53	15	55	123	6,505	3	6,508	401	0	6,759	1,463	15,254
	非食品製造業	05	13	5	0	18	4	140	145	6	2	0	2,022	2,192
	農林水産関係製造業	04 ・ 05	66	19	55	141	6,510	143	6,653	407	2	6,759	3,485	17,446
	資材供給産業	06	1,844	8	99	1,952	0	0	0	191	4	19	218	2,384
	関連投資	07	0	0	0	0	0	0	0	0	149	0	98	247
	外食産業	08	0	0	0	0	0	0	0	0	0	195	285	480
その他内生部門	09	2,450	137	499	3,086	9,260	298	9,558	739	827	8,445	415,056	437,712	
内生部門計	10	5,760	268	718	6,746	22,833	807	23,640	1,761	983	16,458	419,991	469,580	
粗付加価値	家計外消費支出	11	29	7	46	82	336	8	344	29	19	422	14,160	15,056
	雇用者所得	12	1,007	201	286	1,494	4,925	213	5,138	170	570	7,754	250,673	265,799
	営業余剰	13	2,310	259	242	2,811	3,476	121	3,596	223	79	703	96,494	103,905
	資本減耗引当	14	1,697	75	225	1,997	1,944	88	2,032	113	153	1,321	125,455	131,071
	間接税	15	408	22	83	514	3,393	40	3,433	47	52	896	30,726	35,668
	経常補助金	16	-721	-32	-1	-755	-132	0	-132	-2	-1	0	-2,371	-3,260
	粗付加価値部門計	17	4,730	532	880	6,142	13,943	468	14,411	580	873	11,096	515,137	548,239
	国内生産額	18	10,490	800	1,598	12,888	36,776	1,275	38,051	2,341	1,856	27,554	935,128	1,017,818

注：「消費支出」とは、民間消費支出及び一般政府消費支出の計をいう（表3も同じ。）。

表3 購入者価格評価表

		中間需要											内生部門計	
		農業	林業	漁業	農林漁業	食品製造業	非食品製造業	農林水産関係製造業	資材供給産業	関連投資	外食産業	その他内生部門		
		01	02	03	01~03	04	05	04□05	06	07	08	09		
中間投入	農業	01	1,524	2	0	1,526	7,070	14	7,083	537	2	1,444	1,125	11,716
	林業	02	2	112	0	114	22	427	450	0	1	88	43	696
	漁業	03	0	0	69	69	1,297	0	1,297	4	0	296	153	1,819
	農林漁業	01 ~ 03	1,525	114	70	1,709	8,389	441	8,830	540	3	1,827	1,321	14,231
	食品製造業	04	76	18	63	157	8,098	4	8,102	485	0	9,448	1,953	20,146
	非食品製造業	05	14	5	0	19	6	161	166	7	2	0	2,563	2,758
	農林水産関係製造業	04 ・ 05	91	23	63	177	8,104	165	8,268	492	2	9,448	4,516	22,904
	資材供給産業	06	2,507	14	155	2,676	0	0	0	210	5	25	445	3,362
	関連投資	07	0	0	0	0	0	0	0	0	151	0	110	261
	外食産業	08	0	0	0	0	0	0	0	0	0	195	285	480
その他内生部門	09	1,636	117	430	2,184	6,340	201	6,542	519	822	4,962	413,314	428,342	
内生部門計	10	5,760	268	718	6,746	22,833	807	23,640	1,761	983	16,458	419,991	469,580	
粗付加価値	家計外消費支出	11	29	7	46	82	336	8	344	29	19	422	14,160	15,056
	雇用者所得	12	1,007	201	286	1,494	4,925	213	5,138	170	570	7,754	250,673	265,799
	営業余剰	13	2,310	259	242	2,811	3,476	121	3,596	223	79	703	96,494	103,905
	資本減耗引当	14	1,697	75	225	1,997	1,944	88	2,032	113	153	1,321	125,455	131,071
	間接税	15	408	22	83	514	3,393	40	3,433	47	52	896	30,726	35,668
	経常補助金	16	-721	-32	-1	-755	-132	0	-132	-2	-1	0	-2,371	-3,260
	粗付加価値部門計	17	4,730	532	880	6,142	13,943	468	14,411	580	873	11,096	515,137	548,239
	国内生産額	18	10,490	800	1,598	12,888	36,776	1,275	38,051	2,341	1,856	27,554	935,128	1,017,818

## (9部門分類) (平成27年)

単位：10億円

最終需要							需要合計	(控除) 輸入計	(控除) 商業 マージン	(控除) 国内貨物 運賃	国内生産額	
家計外消費 支出	消費支出	国内総固定 資本形成	在庫純増	国内最終 需要計	輸出計	最終需要計						
11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	
50	3,318	193	-29	3,533	40	3,573	12,900	-2,410	0	0	10,490	01
3	174	0	211	388	10	398	950	-150	0	0	800	02
15	330	0	7	351	62	414	1,846	-248	0	0	1,598	03
68	3,822	193	189	4,272	113	4,385	15,696	-2,808	0	0	12,888	01 ~ 03
872	27,604	0	-24	28,453	683	29,136	44,389	-7,614	0	0	36,776	04
0	5	0	-8	-4	10	6	2,198	-923	0	0	1,275	05
872	27,609	0	-32	28,449	693	29,142	46,588	-8,537	0	0	38,051	04 ・ 05
0	225	0	10	236	72	308	2,692	-351	0	0	2,341	06
0	0	1,445	8	1,453	223	1,677	1,924	-67	0	0	1,856	07
7,493	19,504	0	0	26,997	524	27,521	28,001	-447	0	0	27,554	08
6,621	359,986	135,294	327	502,229	85,145	587,374	1,025,086	-89,958	0	0	935,128	09
15,056	411,146	136,933	503	563,637	86,769	650,407	1,119,987	-102,168	0	0	1,017,818	10

## (9部門分類) (平成27年)

単位：10億円

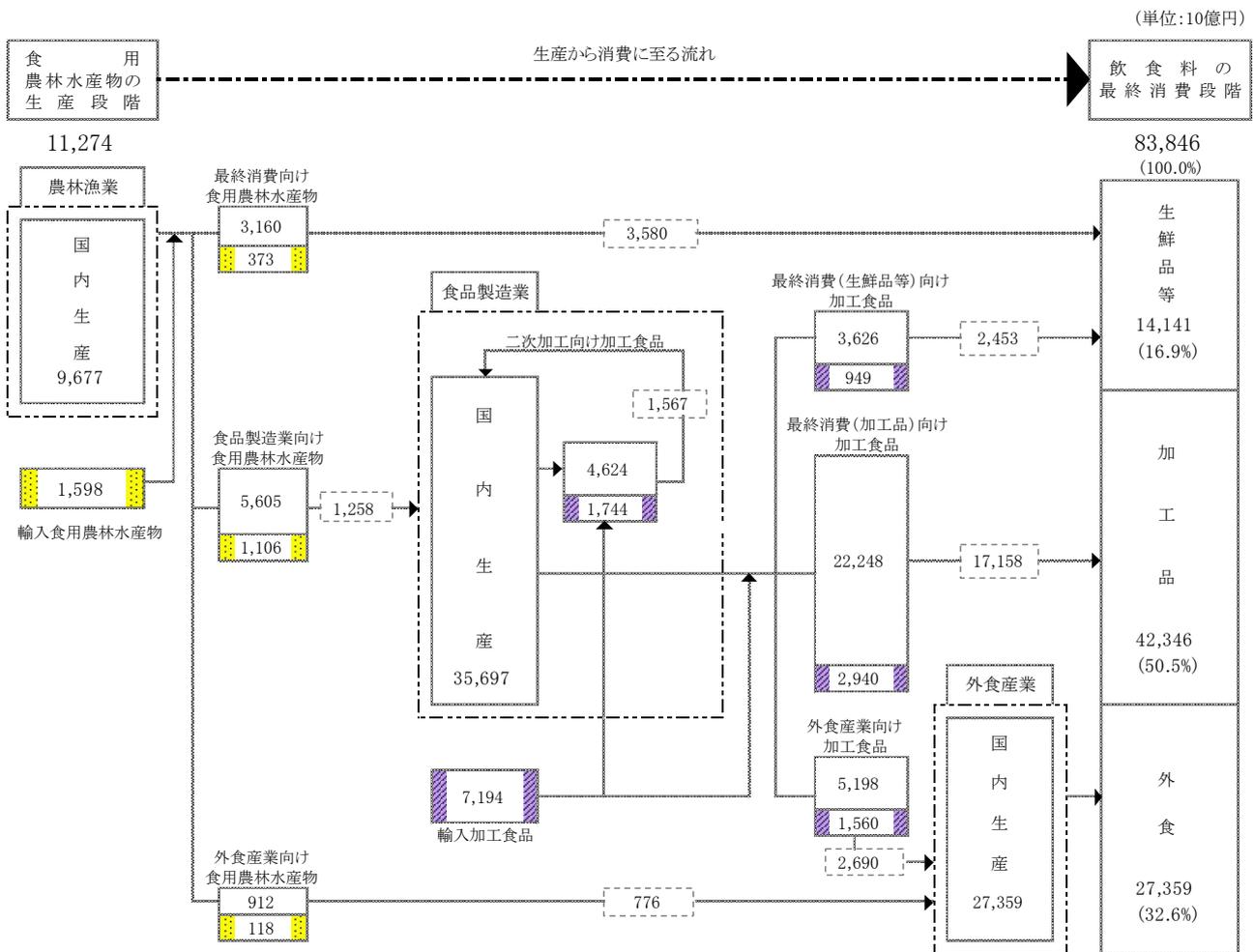
最終需要							需要合計	(控除) 輸入計	(控除) 商業 マージン	(控除) 国内貨物 運賃	国内生産額	
家計外消費 支出	消費支出	国内総固定 資本形成	在庫純増	国内最終 需要計	輸出計	最終需要計						
11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	
112	6,417	193	-25	6,698	58	6,756	18,472	-2,410	-4,818	-754	10,490	01
6	341	0	211	558	12	570	1,266	-150	-276	-40	800	02
27	644	0	7	678	76	754	2,573	-248	-641	-86	1,598	03
146	7,402	193	193	7,934	146	8,080	22,311	-2,808	-5,735	-880	12,888	01 ~ 03
1,437	46,140	0	-20	47,557	894	48,451	68,597	-7,614	-22,172	-2,036	36,776	04
0	22	0	-7	15	12	27	2,784	-923	-368	-218	1,275	05
1,437	46,161	0	-27	47,571	906	48,477	71,381	-8,537	-22,540	-2,253	38,051	04 ・ 05
0	821	0	18	839	85	923	4,285	-351	-1,285	-308	2,341	06
0	0	1,775	8	1,782	245	2,027	2,289	-67	-352	-13	1,856	07
7,493	19,504	0	0	26,997	524	27,521	28,001	-447	0	0	27,554	08
5,979	337,258	134,965	311	478,513	84,864	563,377	991,719	-89,958	29,913	3,455	935,128	09
15,056	411,146	136,933	503	563,637	86,769	650,407	1,119,987	-102,168	0	0	1,017,818	10

## II 食用農林水産物の生産から飲食料の最終消費に至る流れ

### 1 飲食費のフロー

平成 27 年においては、食用農林水産物 11.3 兆円（国内生産 9.7 兆円、輸入食用農林水産物 1.6 兆円）及び輸入加工食品 7.2 兆円が食材として国内に供給され、これらの食材が最終消費者に至るまでに、食品製造業、食品関連流通業、外食産業を経由することにより、加工経費、商業マージン及び運賃、調理サービス代等が付加され、飲食料の最終消費額は 83.8 兆円となった。

図 2 飲食費のフロー（平成 27 年）



- 注： 1 総務省等10府省庁「平成27年産業連関表」を基に農林水産省で推計。  
 2 旅館・ホテル、病院、学校給食等での食事は「外食」に計上するのではなく、使用された食材費を最終消費額として、それぞれ「生鮮品等」及び「加工品」に計上している。  
 3 加工食品のうち、精穀（精米・精麦等）、食肉（各種肉類）及び冷凍魚介類は加工度が低いため、最終消費においては「生鮮品等」として取り扱っている。  
 4 括弧内は、各々の流通段階で発生する流通経費（商業マージン及び運賃）である。  
 5 点線は、食用農林水産物の輸入、斜線は加工食品の輸入を表している。

表4 飲食費のフローの推移

単位：10億円

区 分		昭和55年	60	平成2年	7	12	17	23	27
段生 階産	食 用 農 林 水 産 物	13,515	14,457	14,405	12,798	11,405	10,582	10,477	11,274
	食 用 農 林 水 産 物	12,278	13,056	13,217	11,655	10,245	9,374	9,174	9,677
国 内 生 産	最 終 消 費 向 け	3,913	3,635	3,991	3,609	3,003	2,817	2,920	3,160
	食 品 製 造 業 向 け	7,479	8,702	8,593	7,279	6,357	5,722	5,407	5,605
	外 食 産 業 向 け	886	718	634	767	884	835	847	912
	加 工 食 品	24,109	33,490	35,575	35,905	36,132	33,498	32,782	35,697
輸 入	最 終 消 費 ( 生 鮮 品 等 ) 向 け	4,449	5,991	5,780	5,176	3,927	4,053	3,435	3,626
	最 終 消 費 ( 加 工 品 ) 向 け	14,819	20,181	21,597	22,613	22,586	20,936	20,402	22,248
	食 品 製 造 業 向 け	2,268	3,692	3,733	3,330	4,177	3,873	4,185	4,624
	外 食 産 業 向 け	2,573	3,625	4,466	4,785	5,441	4,636	4,760	5,198
流 通 経 費	外 食	13,703	17,813	21,360	26,763	26,848	25,648	25,121	27,359
	食 用 農 林 水 産 物	1,237	1,402	1,188	1,143	1,160	1,208	1,303	1,598
	最 終 消 費 向 け	280	290	278	323	301	333	264	373
	食 品 製 造 業 向 け	888	1,045	805	661	709	742	926	1,106
最 終 階 段 消 費	外 食 産 業 向 け	69	66	105	160	150	133	113	118
	加 工 食 品	1,954	2,364	4,026	4,597	4,829	5,471	5,916	7,194
	最 終 消 費 ( 生 鮮 品 等 ) 向 け	583	368	1,060	1,035	957	712	780	949
	最 終 消 費 ( 加 工 品 ) 向 け	582	552	1,263	1,297	1,663	2,120	2,524	2,940
流 通 経 費	食 用 農 林 水 産 物	4,364	4,681	4,874	5,339	4,952	4,842	4,807	5,614
	最 終 消 費 向 け	3,006	2,953	2,885	2,993	2,769	2,799	2,872	3,580
	食 品 製 造 業 向 け	890	1,301	1,666	1,843	1,626	1,441	1,253	1,258
	外 食 産 業 向 け	468	427	324	503	557	602	682	776
最 終 階 段 消 費	加 工 食 品	8,994	11,235	16,169	22,248	22,445	23,027	21,808	23,867
	最 終 消 費 ( 生 鮮 品 等 ) 向 け	1,813	2,215	2,985	3,344	3,138	2,869	2,404	2,453
	最 終 消 費 ( 加 工 品 ) 向 け	6,042	7,654	10,927	15,303	15,418	16,087	15,482	17,158
	食 品 製 造 業 向 け	397	560	868	1,258	1,397	1,487	1,505	1,567
最 終 階 段 消 費	外 食 産 業 向 け	743	807	1,389	2,343	2,492	2,583	2,417	2,690
	合 計	49,191	61,652	72,124	82,455	80,611	78,374	76,204	83,846
	生 鮮 品 等	14,045	15,452	16,977	16,480	14,095	13,584	12,675	14,141
最 終 階 段 消 費	加 工 品	21,443	28,387	33,786	39,213	39,668	39,142	38,408	42,346
	外 食	13,703	17,813	21,360	26,763	26,848	25,648	25,121	27,359

注：1 総務省等10府省庁「産業連関表」を基に農林水産省で推計。  
2 平成23年以前については、最新の「平成27年産業連関表」の概念等に合わせて再推計した値である。

2 飲食料の最終消費額

平成27年において飲食費として支出された額のうち、生鮮品等は14.1兆円（平成23年比11.6%増）、加工品は42.3兆円（同10.3%増）、外食は27.4兆円（同8.9%増）となった。

また、構成比をみると、最終消費額に占める加工品・外食の割合が8割を超えている。

表5 飲食料の最終消費額の推移

単位：10億円

区 分		昭和55年	60	平成2年	7	12	17	23	27	増減 (%) 27年/23年
実 数	合 計	49,191	61,652	72,124	82,455	80,611	78,374	76,204	83,846	10.0
	生 鮮 品 等	14,045	15,452	16,977	16,480	14,095	13,584	12,675	14,141	11.6
	加 工 品	21,443	28,387	33,786	39,213	39,668	39,142	38,408	42,346	10.3
	外 食	13,703	17,813	21,360	26,763	26,848	25,648	25,121	27,359	8.9
構 成 比 (%)	合 計	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	0.0
	生 鮮 品 等	28.6	25.1	23.5	20.0	17.5	17.3	16.6	16.9	0.3
	加 工 品	43.6	46.0	46.8	47.6	49.2	49.9	50.4	50.5	0.1
	外 食	27.9	28.9	29.6	32.5	33.3	32.7	33.0	32.6	△ 0.4

注：1 総務省等10府省庁「産業連関表」を基に農林水産省で推計。  
2 構成比の増減はポイント差である。  
3 平成23年以前については、最新の「平成27年産業連関表」の概念等に合わせて再推計した値である。

### 3 飲食費の帰属額

飲食費の帰属額の構成比をみると、輸入加工食品、食品関連流通業及び輸入食用農林水産物の割合が上昇している。

表6 最終消費からみた飲食費の部門別の帰属額の推移

単位：10億円

区 分		昭和55年	60	平成2年	7	12	17	23	27	増減(%) 27年/23年
実数	合 計	49,191	61,652	72,124	82,455	80,611	78,374	76,204	83,846	10.0
	農 林 漁 業	13,515	14,457	14,405	12,798	11,405	10,582	10,477	11,274	7.6
	国内生産	12,278	13,056	13,217	11,655	10,245	9,374	9,174	9,677	5.5
	輸入食用農林水産物	1,237	1,402	1,188	1,143	1,160	1,208	1,303	1,598	22.6
	食 品 製 造 業	13,582	19,382	22,821	24,995	25,509	24,346	23,966	26,986	12.6
	国内生産	11,628	17,019	18,795	20,398	20,681	18,876	18,051	19,792	9.6
	輸入加工食品	1,954	2,364	4,026	4,597	4,829	5,471	5,916	7,194	21.6
	食品関連流通業	13,359	15,916	21,043	27,587	27,397	27,868	26,615	29,482	10.8
外 食 産 業	8,736	11,896	13,855	17,075	16,299	15,577	15,146	16,104	6.3	
構成比(%)	合 計	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	0.0
	農 林 漁 業	27.5	23.5	20.0	15.5	14.1	13.5	13.7	13.4	△ 0.3
	国内生産	25.0	21.2	18.3	14.1	12.7	12.0	12.0	11.5	△ 0.5
	輸入食用農林水産物	2.5	2.3	1.6	1.4	1.4	1.5	1.7	1.9	0.2
	食 品 製 造 業	27.6	31.4	31.6	30.3	31.6	31.1	31.5	32.2	0.7
	国内生産	23.6	27.6	26.1	24.7	25.7	24.1	23.7	23.6	△ 0.1
	輸入加工食品	4.0	3.8	5.6	5.6	6.0	7.0	7.8	8.6	0.8
	食品関連流通業	27.2	25.8	29.2	33.5	34.0	35.6	34.9	35.2	0.3
外 食 産 業	17.8	19.3	19.2	20.7	20.2	19.9	19.9	19.2	△ 0.7	

注：1 総務省等10府省庁「産業連関表」を基に農林水産省で推計。  
 2 構成比の増減はポイント差である。  
 3 平成23年以前については、最新の「平成27年産業連関表」の概念等に合わせて再推計した値である。  
 4 帰属額とは、飲食料の最終消費額のうち、当該部門に帰属する額を示している。具体的には以下により求めた。  
 農林漁業及び食品製造業のうち輸入加工食品：食材として国内に供給された農林水産物及び輸入加工食品の額  
 食品製造業のうち国内生産及び外食産業：飲食料として国内に供給された額から、使用した食材及び流通経費を控除した額  
 食品関連流通業：食用農林水産物及び加工食品が最終消費に至るまでの流通の各段階で発生する流通経費（商業マージン及び運賃）の額

### 4 食品製造業に投入される食材の金額

加工食品を生産するために食品製造業に原材料として投入される食材の構成比をみると、輸入加工食品及び輸入食用農林水産物の割合が上昇している。

表7 食品製造業に投入される食材の金額の推移

単位：10億円

区 分		昭和55年	60	平成2年	7	12	17	23	27	増減(%) 27年/23年
実数	合 計	8,926	10,919	10,513	9,076	8,251	7,821	7,788	8,455	8.6
	国産食用農林水産物	7,479	8,702	8,593	7,279	6,357	5,722	5,407	5,605	3.7
	輸入食用農林水産物	888	1,045	805	661	709	742	926	1,106	19.5
	輸入加工食品	559	1,171	1,115	1,136	1,184	1,357	1,456	1,744	19.8
構成比(%)	合 計	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	0.0
	国産食用農林水産物	83.8	79.7	81.7	80.2	77.1	73.2	69.4	66.3	△ 3.1
	輸入食用農林水産物	9.9	9.6	7.7	7.3	8.6	9.5	11.9	13.1	1.2
	輸入加工食品	6.3	10.7	10.6	12.5	14.4	17.4	18.7	20.6	1.9

注：1 総務省等10府省庁「産業連関表」を基に農林水産省で推計。  
 2 構成比の増減はポイント差である。  
 3 平成23年以前については、最新の「平成27年産業連関表」の概念等に合わせて再推計した値である。

(参考)「飲食費のフロー」の構造と見方について

## 1 図2（飲食費のフロー）の見方

飲食費のフローとは、国内に供給（国内生産または輸入。図の左側。いわゆる上流部分）された食用の農林水産物が、食品製造業、食品関連流通業（商業、運輸業）、外食産業を経由して、最終消費（図の右側。いわゆる下流部分）されるまでの流れを、金額で示したものである。

右頁の解説図に沿ってフロー図の左の部分からみると、国内で食用として消費される農林水産物の供給額の総額が  $S$ （11.3兆円）であり、その内訳として国内生産されたものが  $S_d$ （9.7兆円）、輸入されたものが  $S_i$ （1.6兆円）である。

なお、これらの額には、国内で食用として消費されないもの（輸出、農業資材又は工業用原材料等向け）は除かれている（以下に示す加工食品についても同様）。

この国内に食用として供給された農林水産物（ $S = S_d + S_i$ ）のうち、直接、最終消費に仕向けられるものが  $S_{df} + S_{if}$  であり、これに流通経費（商業マージン及び国内貨物運賃、点線の囲み） $MS_f$  が上乗せされ、「生鮮品等」（ $C_f$ 、14.1兆円）の一部として最終消費される（「等」については後述）。

国内に供給された食用農林水産物のうち、食品製造業（加工食品）の原材料に仕向けられるものが  $S_{dp} + S_{ip}$  であり、これらを購入する段階で流通経費  $MS_p$  が上乗せされる。

食品製造業は、これらと輸入加工食品の一部  $P_{ip}$  及び二次加工向けの加工食品  $P_{dp}$ （食品製造業の内部に再度投入されるもの）を用い（これらの購入段階で流通経費  $MP_p$  が上乗せされる）、加工食品  $P_d$  を生産している（35.7兆円）。

国内生産又は輸入された加工食品の一部（ $P_{df} + P_{if}$ ）は、流通経費  $MP_f$  が上乗せされた後、生鮮品等の一部として最終消費される。ここでいう生鮮品等の「等」とは、食肉、冷凍魚介類及び精穀（精米、精麦等）の3品目を指す。これら品目については、と畜や冷凍といった製造工程を経るため産業連関表においては加工食品に分類されるが、加工度が低く消費者にも一般に生鮮品と意識されているため、本図における最終消費段階では「生鮮品等」（ $C_f$ ）の一部として扱っている。

また、加工食品の一部（ $P_{dk} + P_{ik}$ ）は、流通経費  $MP_k$  が上乗せされ、加工品として最終消費される（ $C_k$ 、42.3兆円）。

さらに、加工食品のうち  $P_{dr} + P_{ir}$  は、流通経費  $MP_r$  が上乗せされて外食産業の食材に仕向けられる。外食産業は、これら加工食品と、流通経費を含む食用農林水産物（ $S_{dr} + S_{ir} + MS_r$ ）を用いて国内生産（ $R_d$ 、27.4兆円）を行っており、同額が外食として最終消費される（ $C_r$ ）。外食はレストランなど生産された場で消費されるため、この段階での流通経費は上乗せされない。

これらフロー図に示した数値と、表4～7で表章している数値との関係は、解説図の後半の通りである。

【解 説 図】

図2 飲食費のフロー(平成27年)

(単位:10億円)

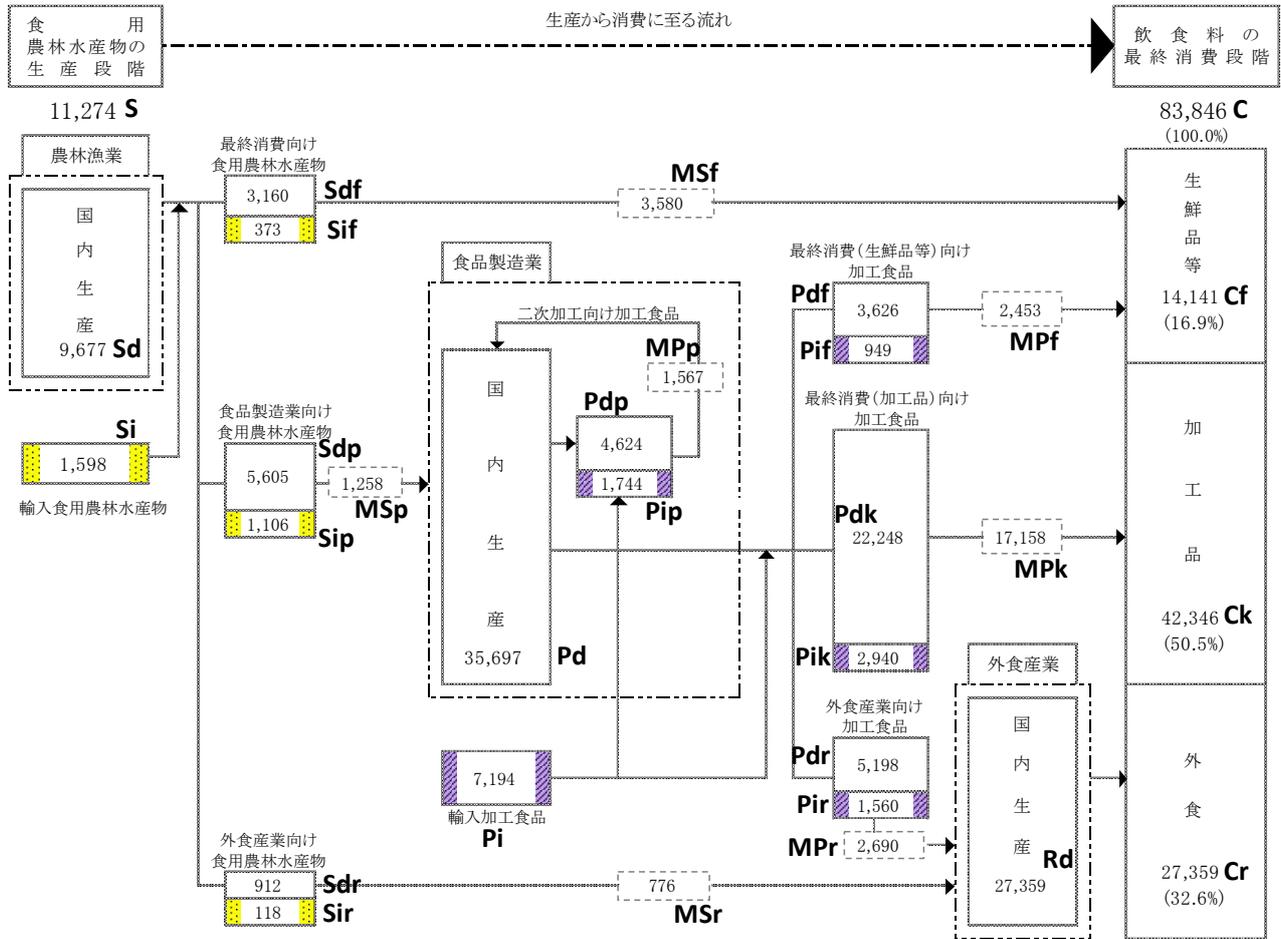


表4 飲食費のフローの推移(抜粋)

単位:10億円

区 分		27年	
生産段階	食用農林水産物	11,274	$S = Sd + Si$
国内生産	食用農林水産物	9,677	$Sd = Sdf + Sdp + Sdr$
	最終消費向け食用農林水産物	3,160	Sdf
	食品製造業向け	5,605	Sdp
	外食産業向け	912	Sdr
輸入	加工食品	7,194	$Pi = Pif + Pik + Pip + Pir$
	最終消費(生鮮品等)向け	949	Pif
	最終消費(加工品)向け	2,940	Pik
	食品製造業向け	1,744	Pip
流通経費	外食産業向け	1,560	Pir
	食用農林水産物	5,614	$MS = MSf + MSp + MSr$
	最終消費向け	3,580	MSf
	食品製造業向け	1,258	MSp
最終消費段階	外食産業向け	776	MSr
	加工食品	23,867	$MP = MPf + MPk + MPp + MPr$
	最終消費(生鮮品等)向け	2,453	MPf
	最終消費(加工品)向け	17,158	MPk
合計	食品製造業向け	1,567	MPp
	外食産業向け	2,690	MPr
	合計	83,846	$C = Cf + Ck + Cr$
最終消費段階	生鮮品等	14,141	$Cf = Sdf + Sif + MSf + Pdf + Pif + MPf$
	加工品	42,346	$Ck = Pdk + Pik + MPk$
	外食	27,359	$Cr = Rd$

(注:次頁に続く。)

## 2 最終消費からみた飲食費の部門別の帰属額について

飲食費のフロー（図）からは、飲食費の最終消費額 C がどの部門に帰属しているかをみることもできる（解説図・続きの表 6 を参照）。

農林漁業（国内生産）への帰属額は  $S_d$  ( $S_{df} + S_{dp} + S_{dr}$ ) となる。

食品製造業（国内生産）への帰属額は、国内生産額  $P_d$  から使用した原材料費（食材のみ）及び流通経費の合計（食用農林水産物分  $S_{dp} + S_{ip} + M_{Sp}$  及び加工食品分  $P_{dp} + P_{ip} + M_{Pp}$ ）を控除した額であり、加工経費等（人件費、水道光熱費、包装費など）の額を示している。

食品関連流通業への帰属額は、各段階で発生する流通経費（点線囲み、頭文字が M）の総額である。

外食産業への帰属額は、外食産業の生産額  $R_d$  から使用した食材費及び流通経費の合計（食用農林水産物分  $S_{dr} + S_{ir} + M_{Sr}$  及び加工食品分  $P_{dr} + P_{ir} + M_{Pr}$ ）を控除した額であり、調理サービス代等（人件費、水道光熱費など）の額を示している。

帰属額とは付加価値よりも広い概念であることに留意されたい。付加価値とは生産額（売上）から中間投入額（原材料費、燃料費等）を差し引いた額であるが、これに対して、例えば農林漁業への帰属額には肥料代や農薬代が含まれており、外食への帰属額には食材費以外の材料費や水道光熱費などが含まれている。

### 【解説図】（続き）

表 5 飲食料の最終消費額の推移（抜粋）

単位：10億円

区 分		27年	
実 数	合 計	83,846	$C = C_f + C_k + C_r$
	生 鮮 品 等	14,141	$C_f$
	加 工 品	42,346	$C_k$
	外 食	27,359	$C_r$

表 6 最終消費から見た飲食費の部門別の帰属額の推移（抜粋）

単位：10億円

区 分		27年	
実 数	合 計	83,846	$C = S + PA + MA + RA$
	農 林 漁 業	11,274	$S = S_d + S_i$
	国内生産	9,677	$S_d$
	輸入食用農林水産物	1,598	$S_i$
	食 品 製 造 業	26,986	$PA = PAd + P_i$
	国内生産	19,792	$PAd = P_d - (S_{dp} + S_{ip} + M_{Sp}) - (P_{dp} + P_{ip} + M_{Pp})$
	輸入加工食品	7,194	$P_i$
	食 品 関 連 流 通 業	29,482	$MA = (M_{Sf} + M_{Sp} + M_{Sr}) + (M_{Pf} + M_{Pk} + M_{Pp} + M_{Pr})$
外 食 産 業	16,104	$RA = R_d - (S_{dr} + S_{ir} + M_{Sr}) - (P_{dr} + P_{ir} + M_{Pr})$	

表 7 食品製造業に投入される食材の金額の推移（抜粋）

単位：10億円

区 分		27年	
実 数	合 計	8,455	$S_{dp} + S_{ip} + P_{ip}$
	国産食用農林水産物	5,605	$S_{dp}$
	輸入食用農林水産物	1,106	$S_{ip}$
	輸入加工食品	1,744	$P_{ip}$